
彼女と私の天秤

九重なつき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼女と私の天秤

【Nコード】

N0925Q

【作者名】

九重なつき

【あらすじ】

人間の関係性についての勝手なる独白

いつからか立場は逆転した。

心の中で呟いてみると天秤が傾きを変える図が頭に浮かんだ。

彼女と私は同級生だった。

どちらも気が強い方では無かったし華やかでも無かったけれど地味に過ごすのは嫌いだった。

周りに気づかれることを不本意としながらも

心が求めるものをどうにか叶えようとしていた。

多分どこにでもいるちよつと”弱め”な高校生だった。

彼女が私に惹かれた。

私自身決して口にはしなかったけれど

「自分の方が良いんじゃないの」という自負はあった。

それは話し方に、態度に、彼女との関わりに出ていた。

だからこそ私は彼女に変に気を使うこともなく

のびのびと魅力を出せていたのだろう。

話したいことは全て話せた。

抑えてるつもりで浮かれたような自慢や相談や悩み事。

彼女の悩みには欠伸なんかしながらアドバイスして笑わせていた。

でも今、目の前で欠伸をしているこの女は。

控え目でありながら自分の話を成功談を笑顔で話し

私の話になった途端欠伸を何回もするこの女が

あの日の彼女だとは。

当時一方的にかかってきてばかりだった電話を

忙しかると3分経たずに切った夜もあった。

そんな関係だったのだ。
そしてそれぞれ別の大学へ進学した。

私は大学で最初こそ成功したものの、落ちていった。
そのうち私が彼女を必要とするようになった。
その時、天秤の傾きはどこにあったのだろう。

「彼女の方が勝っている」
そんなことを身に染みて思うことが増えた。
彼女に気を使うようになった。

自分の言葉で無く、彼女が喜ぶ言葉を探すようになり
沈黙が怖くなり、彼女の欠伸を気にするようになった。

ああ、これは怠惰な私の罪なのか。
天秤の戻し方を私はまだ見つけていない。
頭に浮かんだその図がいやにひっかかって離してくれない。

(後書き)

人間の厭らしさ。人間らしさ。
みんな幸せになりたいだけなのに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0925q/>

彼女と私の天秤

2011年1月15日22時44分発行